

同窓会だより

江戸川総合人生大同窓会
平成24年6月20日発行
第11号

会長挨拶

今期の同窓会活動はクラス幹事の皆さんの積極的な対応で、当初の狙い通りに一步一步着実に進行しております。

会員グループの主催する講演会「あったか地域の大家族」への協力、39組のボランティアグループが参加した「江戸川総合人生大学ボランティア連絡会」の開催、そして自主イベントとして「江戸時代の画家 伊藤若冲とアメリカ」を演目とした美術講演会を主催致しました。それぞれのイベントに参加された方々からは高い評価を頂き、今後の活動に対する激励をたくさん戴きました。

それぞれが違った分野を体験した貴重な人材の集まりが、目標に向かって取り組み、実現していく「人生大学卒業生のパワー」に感動しております。

今後もいろいろなイベントが企画されますので大いに期待ください。

江戸川総合人生大学 同窓会会長 川瀬隆弘（国4）



「江戸時代の画家 伊藤若冲とアメリカ」

5月9日午後2時から江戸川区総合文化センター研修室で、学習院大学名誉教授小林忠先生による「江戸時代の画家 伊藤若冲とアメリカ」と題する講演会を開催しました。

最近日本で伊藤若冲が大変な人気を博しているが、それはアメリカでの発見と評価がきっかけであったこと、また、若冲の使った画材や裏彩色など“裏話”なども紹介されました。

会場は200名の定員一杯の聴衆が参加され、アンケート結果では概ね好評で、今後も同窓会による文化講演会を期待する方が多くいました。

講演後、小林先生から「多くの方々が講演会を積極的に盛り上げ、講演者としてとても話しやすかったです。聴衆の皆さまの反応もよく、熱心な学びの意欲を感じました。」とコメントを頂きました。講演終了後の懇親会にも多くの方が参加され、旧交を温めていました。

<活動部会>

会長リレー対談

初代 会長 鈴木圭一郎氏（中央）

2代目会長 島田 久市氏（左）

3代目会長 川瀬 隆弘氏（右）



木田 今日では初代から3代目の会長。事務局からもご参加頂きありがとうございます。初めての試みなので、堅苦しすぎず脱線しすぎず対談を進行できればと思っています。それではそれぞれの立場で、立ち上げのご苦労、現状、これからの展望などを率直にお話しいただきたい。

鈴木 江戸川総合人生大学は、江戸川区長期計画14年度版に掲げられた「生涯学習の場」のひとつとして、平成16年に開学。1期生は同窓会を立ち上げないままクラスごとに会則を作る形で卒業しました。

もっとも学生便覧には卒業後の構想として、CAT（コミュニケーション・アクション・タンク）という行政の構想がありましたが、実施に至りませんでした。

2期生は2年次中に「20年4月1日より事務局の一部外部委託」の話にも絡めて同窓会発足の機運が高まり、1期生にも呼びかけ合同準備会を発足しました。

準備会で一番苦労したのは会則ですね。立ち上げの時は2学年しかいないので、クラス幹事は全員が役員だった事もあり、コミュニケーションは取りやすかった。これからは（人数が増えて）大変だと思う。

役員の数、学科幹事は何をすべき

島田 繰り返しになるが、2期の2年次の運営会議で同窓会を作りたいと話が出ていた。1期生にも呼びかけて準備委員会を作った。準備会は6回開催し会則を作る作業では、何回も書き換えて訂正で真っ赤になった。7回目で引き継ぎがあり、総会の準備を進めた。

木田 立ち上げる際に抵抗はありましたか。鈴木 会則に抵抗はなかったが、入ってから疑問が出た。

島田 会費は何故1000円か、なんのため使うのか。でも最初は全員入会した。木田 始めは全員参加ですか？

島田 卒業生はもちろん、中退者も受け入れた。我々も盛り上がっていたので、「さあ、入ろう！」という形だった。鈴木 スタートして最初は勢いがあったが、正直言って当時は考えながら進むしかなかった。事務局ともどう関わるかお互い手探り状態だった。良い意味で緊張感があった。

木田 全員参加は理想ですね。スローガンは何でしたか？

島田 大学の発展に寄与する。学生相互の親睦を図る。会則を考えているときはボランティア支援などもいれ、もっと細かく考えていた。だが、目的はシンプル

ルな方がわかりやすいだろうという結論になった。

木田 スタートして4年がたち、会員数なども増え、様々な意見、退会者が出るなど当初の理念通りには、いかなくなってきたのではないか。会長としての手綱の取り方は？

島田 締めると言うより緩めていた。自由に意見を言ってもらい執行部がどう集約していくかだ。

鈴木 北野学長は入学や卒業の、式典の挨拶で、論語の「和して同ぜず」を引用されることが多い。「協調はするが自分の考えは持っている」と言う事だろう。江戸川総合人生大学卒業後の活動のポイントは、「行政の手が届かないところに手をさしのべる」と言う事ではないだろうか。

川瀬 会長を受けた時、これからはどうするかと考えた。卒業生の為、クラス幹事の為、魅力ある同窓会活動を目指すことを今期のスローガンにした。その為にもタイムリーな情報の共有化が必要で同窓会独自のホームページを立ち上げることにした。その一環としてクラス

幹事の為の「パソコン教室」をしている。苦手な人も慣れてきて返信をいただくようになった。それが嬉しい。

木田 卒業してそれぞれの地域へ帰っていく。これからの展望は？

島田 大学と同窓会はクルマの両輪。どちらかがかけてもだめだ。卒業してから、いかに地域への貢献をしていくかだ。

川瀬 卒業してからの活動をサポートしていきたい。その第1弾が「あったか地域の大家族」のサポートだった。

*4面活動部会報告参照

鈴木 ネットワークが大事だ。お互い知らない者同士だからそれをつなぐきっかけを作るのが大事だと思う。

事務局 区議会でも、卒業生の活動は評価されています。

～まだまだ話しは続く～

「同窓会のスタート」を伝えたい、と企画を立てました。このほかにも話題は盛りたくさん。お忙しい中ありがとうございました。

<広報部会>

「会長リレー対談」参加者

鈴木圭一郎

島田 久市

川瀬 隆弘

金久保幸夫 石川麻美 鈴木英也

木田 一宇 宮島宣昭 野地次男

小杉 裕子



総務部会活動報告

- * クラス幹事のためのPC講座 活動室で開催中。
「自分で資料を作成し、それをメールで送信する」を目標。2月から毎月1回開催。基礎的な事を繰り返し丁寧に教えています。
- * バスツアー（区内めぐり・施設見学会）5月31日に実施。
- * 住所の変更・会費納入・同窓会に対する意見など各クラス幹事までご連絡下さい。

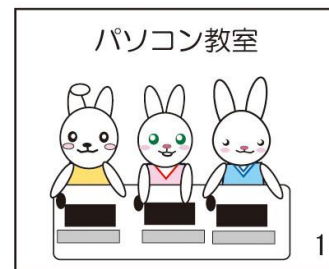
活動部会活動報告

- * ボランティア連絡会 4月27日 篠崎文化プラザ
江戸川総合人生大学ボランティア連絡会(仮称)設立趣旨を説明、各グループ間の“集いの場”の提供。スキルアップを図る講習会、勉強会を開催する。各グループの活動や開催するイベントを同窓会と協働し応援する。
- * 「あったか地域の大家族」のサポート（同窓会4期にて了承事案）高村ヒデさん（子4）が、在学中に学んだ「このゆびとーまれ」（代表惣万佳代子氏）に共感し、「江戸川・地域・共生を考える会」を立ち上げ惣万氏の講演会を企画。実施段階に入った後に、第5期同窓会活動部会が前期より引継いで、応援する事になった。前売り券の販売、当日のサポートなどを行った。

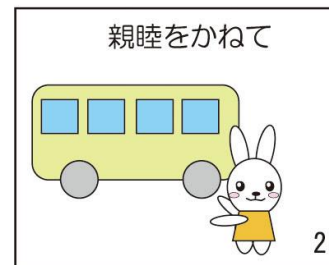
江戸川総合人生大学事務局より

新年度を迎え、事務局も新体制になりました。3月まで副室長をしておりました石川麻美が室長になり、新しく加藤紀将が副室長として着任いたしました。

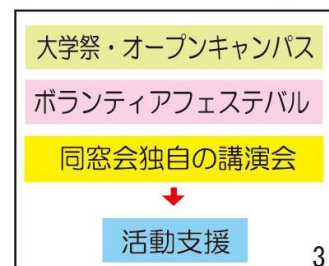
今後も同窓会と連携をとり、卒業生そして在校生とのネットワークをより一層充実したものにしていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。



クラス幹事の研修が行われました。



区内バスめぐりや大人の工場見学も予定。



卒業生の講演会にもボランティアで参加。



なくてはならない、同窓会なのでした。

謝罪と訂正 同窓会だより10号において、「前会長 島田久市さん」のお名前を誤って掲載してしまいました。ここにお詫びし訂正いたします。

今号は、「会長リレー対談」を特集としてお届けしました。立ち上げの苦勞を伝えていなくてはという思いから企画しました。ご意見ご感想はクラス幹事を通じ広報部会までお願いいたします。

広報部会メンバー <江>木田一宇 宮島宣昭 高島奈保美 野地次男 <国>田中博 久津のり江 <介>上野文代 伊野明子 <子>梶原啓子(タイトル・4コママンガ) 江里口紀子 小杉裕子

訃報： 喜友名典子さん(介1) H24 4/20 川名信義さん(江6) H24 3/5
ご冥福をお祈りいたします。